

令和元年度  
事業報告書

社会福祉法人 静岡福祉事業協会

## 令和元年度 社会福祉法人静岡福祉事業協会事業報告

当法人は伝統ある社会福祉法人として、社会福祉法に定める第1種社会福祉事業である、母子生活支援施設『千代田寮』及び第2種社会福祉事業である、保育所『千代田保育園』の施設運営を主要事業として、当法人の経営理念及び運営基本方針に基づき、適切な福祉施設の運営に努めた。

また、千代田寮においては施設の環境整備・安全対策として年度当初に、外庭の芝生張り工事を行った。これにより、児童の遊び場所として安全性を高めるとともに、敷地内に緑を増やすことによって利用者の癒し（ヒーリングガーデン）効果が期待される。さらに、午前中の時間は千代田保育園の園児たちの遊び場にも利用するなど、はだし保育の更なる効果にも期待される。

この他、改正社会福祉法による、『地域における公益的な取組を実施する責務』について、現行の制度では実施困難な地域のニーズを把握するための情報収集を念頭に置き、法人や施設等において実施できないことがないかを常に模索しながら施設運営に取り組んだ。

### I 施設運営事業報告

#### 1 母子生活支援施設『千代田寮』の運営

(1) 千代田寮は、児童福祉法の理念に基づき、配偶者のいない女子または、これに準じる事情にある女子及びその者が監護すべき児童を入所させて保護するとともに、児童が心身ともに健やかに育つよう、また、母親が経済的、社会的に自立できるよう生活全般にわたって支援を行った。

#### (2) 支援世帯数の状況

令和元年度は、千代田寮入所定員 30 世帯に対し、年度当初の在所世帯は 28 世帯であったが、14 世帯が自立等により退所し、新たに 13 世帯が入所したことにより、3 月末現在では 27 世帯の在所状況となった。

(詳細報告は千代田寮事業報告書記載のとおり)

#### 2 保育所『千代田保育園』の運営

(1) 千代田保育園は、保育ニーズが多様化する中で、保育を必要とする子ども達を受け入れ、保育理念等に基づき保育の充実に努めるとともに、保育園児の健やかな成長のための質の高い保育サービスの提供に努めた。

#### (2) 保育園児の状況

令和元年度は、千代田保育園利用定員 180 人に対し、新入園児 30 人を迎え、年度当初の在園児は 167 人であったが、年度途中 6 人が転居等により退園し、新

たに 19 人が入園したことにより、3 月末在園児数は 180 人となった。  
(詳細報告は千代田保育園事業報告書記載のとおり)

## II 役員会議等事業報告

### 1 理事会の開催

#### (1) 令和元年度第 1 回理事会

期日 令和元年 6 月 6 日 (木)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 平成 30 年度事業報告 (案)
  - ② 平成 30 年度本部及び施設拠点区分収支決算 (案)
  - ③ 令和 元年度本部及び施設拠点区分第 1 次補正予算 (案)
  - ④ 理事及び監事候補者の選定 (案)
  - ⑤ 評議員候補者の推薦 (案)
  - ⑥ 評議員選任・解任委員会の開催
  - ⑦ 令和 元年度定時評議員会の開催

報告事項

- ① 社会福祉充実計画について
- ② 職務執行状況について (施設職員調書・業務委託一覧)

#### (2) 令和元年度第 2 回理事会

期日 令和元年 6 月 25 日 (火)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 理事長の選定
  - ② 常務理事の選定

#### (3) 令和元年度第 3 回理事会

期日 令和元年 11 月 25 日 (月)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 就業規則の一部改正 (案)
  - ② 評議員候補者の推薦 (案)
  - ③ 評議員選任・解任委員会の開催

報告事項

- ① 令和元年度上半期 事業実施状況報告
- ② 令和元年度上半期 収支予算執行状況報告
- ③ 評議員の選任
- ③ 職務執行状況報告

#### (4) 令和元年度第4回理事会

期日 令和2年3月13日(金)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 令和元年度本部、施設拠点区分第2次補正予算(案)
  - ② 令和2年度事業計画(案)
  - ③ 令和2年度本部、施設拠点区分収支予算(案)
  - ④ 給与規程の一部改正(案)
  - ⑤ 施設長の任免
  - ⑥ 理事候補者の選定(案)
  - ⑦ 令和元年度第2回評議員会の開催

### 2 評議員会の開催

#### (1) 令和元年度定時評議員会

期日 令和元年6月25日(火)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 平成30年度本部及び施設拠点区分収支決算(案)
  - ② 令和元年度本部及び施設拠点区分第1次補正予算(案)
  - ③ 理事の選定(案)
  - ④ 監事の選任(案)

報告事項

- ① 社会福祉充実計画について
- ② 平成30年度事業報告

#### (2) 令和元年度第2回評議員会

期日 令和2年3月23日(月)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 令和元年度本部、施設拠点区分第2次補正予算(案)
  - ② 令和2年度事業計画(案)
  - ③ 令和2年度本部、施設拠点区分収支予算(案)
  - ④ 理事の選任

### 3 監査の実施

#### (1) 当法人の決算監事監査

- ・対象 平成30年度事業執行状況及び経理状況
- ・実施期日 令和元年5月30日(木)
- ・監査結果 令和元年5月30日(木)

##### ① 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人

の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

② 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

(2) 当法人の定期監事監査（中間監査）

- ・ 対象 令和元年度上半期、事業執行状況及び経理状況
- ・ 実施期日 令和元年 11 月 14 日（木）
- ・ 監査結果 令和元年 11 月 14 日（木）

令和元年度上半期分（H31.04.01～R. 元.09.30）の社会福祉法人静岡福祉事業協会の事業、貸借対照表及び収支計算書については、関連する法令及び通知に従った監査の結果、適正であると認めます。

(3) 静岡市保健福祉長寿局健康福祉部福祉総務課による令和元年度の「千代田寮」の指導監査

- ・ 対象 千代田寮
- ・ 実施期日 令和元年 10 月 9 日（水）
- ・ 監査結果 令和元年 11 月 8 日（金）  
文書指摘 なし

(4) 静岡市子ども未来局幼保支援課による令和元年度の「千代田保育園」の指導監査

- ・ 対象 千代田保育園
- ・ 実施期日 令和元年 8 月 29 日（木）
- ・ 監査結果 令和元年 10 月 8 日（火）  
文書指摘事項 なし

4 評議員選任・解任委員会の開催

(1) 令和元年 6 月 12 日（水）

場所 （福）静岡福祉事業協会  
議事 評議員の選任

(2) 令和元年 12 月 11 日（水）

場所 （福）静岡福祉事業協会  
議事 評議員の選任

## 5 法人内部の運営会議

下記の運営会議を実施し、法人組織の強化、健全な施設経営の推進に努めた。  
(経営環境と経営状況の把握・分析に基づき経営課題を明確にし、具体的な取組の推進。)

### (1) 千代田寮運営会議：毎月第2水曜日（月例）

① 実施回数 12回

② 会議事項

- ・月間事業実施状況
- ・母子生活支援に係る懸案事項等の調整
- ・入所者支援充実、常に選ばれる施設になるための具体的方策
- ・その他

### (2) 千代田保育園運営会議：毎月第3水曜日（月例）

① 実施回数 12回

② 会議事項

- ・月間事業実施状況
- ・保育に係る懸案事項等の調整
- ・質の高い保育の提供、保育園児を確保するための具体的方策
- ・その他

### (3) 法人本部運営会議：毎月第1水曜日（月例）

① 実施回数 12回

② 会議事項

- ・月間事業費執行状況（月次試算表の状況）及び月次経営成績
- ・施設利用者数確保のための具体的方策
- ・法人経営、組織等に係る共通事項・懸案事項等の調整
- ・その他

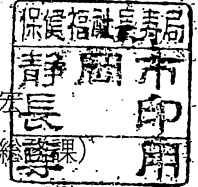
31 静保健福総第 3243 号

令和元年 11 月 8 日

社会福祉法人静岡福祉事業協会

理事長 萩原 信幸 様

静岡市長 田辺 信 丞  
(保健福祉長寿局健康福祉部福祉総務課)



令和元年度社会福祉施設指導監査の実施結果について (通知)

令和元年 10 月 9 日に実施した「千代田寮」の指導監査結果について、下記のとおり通知  
します。

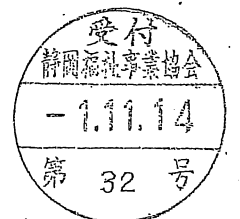
記

- 1 文書指摘  
なし

担 当 保健福祉長寿局健康福祉部  
福祉総務課監査指導係

電 話 054 - 221 - 1367

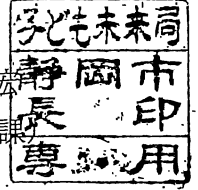
F A X 054 - 221 - 1091



31 静子幼保第 1568 号  
令和元年 10 月 8 日

社会福祉法人静岡福祉事業協会 理事長 様

静岡市長 田辺 信宏  
(子ども未来局幼保支援課)



令和元年度児童福祉施設等指導監査の実施結果について (通知)

令和元年 8 月 29 日に実施した、千代田保育園の指導監査結果について、下記のとおり通知します。なお、現場で指示した事項については、速やかに改善するようお願いいたします。

記

文書指摘事項

なし

担当 子ども未来局 幼保支援課

総務・事業者指導係

TEL 054-354-2622

FAX 054-352-7733





## 令和元年度 千代田寮事業報告書

近年入寮してくる母子は、夫などからの暴力を理由とするものがほとんどで、様々な課題をかかえるケースが多い。支援の目標、課題等を明確にするため、ケースごとに自立支援計画を作成し、福祉事務所、弁護士、精神科医等と連携して母親の日常生活、就労等のスキル向上が図られるよう、また、子どもの生活・学習習慣の改善、社会性の向上等が図られるよう取り組んだ。

### 1 在籍世帯数

(単位：世帯)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日	28	28	26	29	30	30	28	28	28	28	27	28
入所	0	0	4	1	1	0	1	0	1	1	3	1
退所	0	2	1	0	1	2	1	0	1	2	2	2

※入所 DV：13世帯 退所 自立：13世帯 夫の追跡の為措置変更：1世帯

### 2 自立支援活動状況

#### (1) 日常生活支援

母子が安定した生活を送るためには、生活の基である衣・食・住が満たされることが必要である。母子に住居を提供し、家事、子育て、健康などに関する相談に応じるとともに、必要に応じて買い物や各種手続きに付き添うなど母子が健康で安定した日常生活を送ることができるよう支援した。

#### (2) 心理的支援

DV や虐待による心的外傷等のために心理的不安定さを抱える母子に対し、遊戯療法、グループ療法、カウンセリング等の心理療法を実施し、母子が困難を改善し、安心感、安全感の再形成及び人間関係の修復等を行うことができるよう支援した。

令和元年度は、母12人、児童17人に対し延べ263回のカウンセリング、児童のグループワーク等を実施した。結果は下記のとおり。

区分	軽快	やや軽快	不変	中断
母	1人	6人	1人	0人
児童	4人	3人	3人	1人

#### (3) 児童学習支援

児童への学習指導支援は、児童の学力向上のみならず、入所前の虐待やDVなどによって学習環境が整っていなかった児童に帰宅後に学習を行うという習慣を身につけさせるため、学習場所を確保し、担当職員を配置して支援を行った。

また男児中学生、高校生を対象に学力の向上や職員と児童や児童館の交流を深めることを目的に学習会を延べ22回実施した。

○令和元年度 学習指導実施回数児童参加人数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数(日)	20	22	20	22	20	19	21	20	20	18	18	19	239
参加人数(人)	211	217	266	251	296	214	248	191	256	167	183	211	2711

(4) 就労支援について

自らの就労体験により収入を得ることで自立に向けてた自信を育てることを目的としている。令和元年度は12名の母親に対して支援を行った。

- ・静岡市母子寡婦福祉連合会の就労支援員と連携して求人情報の提供や、就労時の面接・履歴書作成等の支援を行っている。求人情報等は定期的に施設に届くため施設内に掲示している。また、生活保護家庭の場合は、葵区福祉事務所生活支援課生活保護係の就労支援員と連携した。
- ・母親の状態により、長時間の就労が厳しい場合は、母親の仕事探しに同行し、求人情報に掲載されない仕事を当たるなど個別支援を行った。
- ・就労に対する迷いや不安に対して本人の話に傾聴したり、必要に応じて助言するなどの支援を行った。
- ・母親が安心して就労できるよう施設内保育や学童保育を実施した。

○令和元年度 保育実績

(単位:件、人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	20	22	29	45	34	26	22	28	17	32	36	33	344
人数	20	23	36	50	42	34	31	45	25	48	63	58	475

3 個別対応について

他者に相談したり、他者に受け入れてもらう経験を積むこと、また、自分の課題に向き合って克服するプロセスを経験することにより、入所者の成長を促し、日々の生活を豊かに過ごせるようになることを目指した。

(i) 母親への対応

支援担当者が入所に立ち合って関係づくりのきっかけをつかむとともに、入所後に母親から入所に至るまでの経過の聞き取り面接を行い、利用者の背景を把握した。それを基に利用者への理解を深め、今後の方向を一緒に話し合っ決めて。

母親が生活上の困難を抱えた時には、随時対応し、その後も様子確認の面談を実施するとともに、利用者からの希望を受けて定期的に面接の時間を設け個別に対応した。(対応を記録に残して他の職員と情報共有した。)

【主な主訴内容】

- ・心身の悩み
- ・人間関係
- ・子育ての不安
- ・将来への不安
- ・自分の生育歴への怒りやその整理
- ・離婚調停や裁判中はそのことへの不安や恐怖
- ・生活全般の悩み
- ・児童相談所ケースの母親の場合は、そのフォローを実施  
(ペアレントトレーニングの振り返り面接や、児相面接への同行)

## (2) 子どもへの対応

日々の生活場面を観察するとともに、遊びや学習での会話をきっかけに気になる様子が伺えれば、面接を投げかけて実施した。また、子どもからの希望があれば随時面接を行った。子どもも母親も主訴内容は、多様でそれぞれ異なるが、丁寧な面接を心掛けた。また、母子双方からの相談があることもあり、関係を調整するための役割も担った。

### 【主な主訴内容】

- ・ 学校生活の対人関係、学習や進路のこと      ・ 千代田寮での生活のこと
- ・ 母の事、父の事（父の存在をどのように理解して自分の気持ちの中でどう折り合いを付けたらよいか）
- ・ 友達とのこと
- ・ 児童相談所ケースの場合は、児相との連携で面接を請け負う
- ・ 心理担当職員と協働してグループワークの実施

## (3) その他

- ・ DV被害に特化した情報提供や支援
- ・ 離婚における弁護士との連絡、裁判等への同行支援
- ・ 住民票の移動がない状態での諸々の手続きの同行支援
- ・ 退寮時のネットワーク作り
- ・ ケースネット会議への参加による関係機関との連携

### ○支援実績

(単位：回)

	上半期 (H31年4月～R1年9月)	下半期 (R1年10月～R2年3月)	令和元年度年間	
個別面接実施回数	687	824	1511	
ケースネット会議出席 (退寮ケース対応)	7 (0)	2 (0)	9 (0)	
関係機関への情報提供 (内訳)	807	785	1592	
(市役所・区役所)	356	426	782	
(警察署)	8	15	23	
(弁護士)	77	55	132	
(学校)	223	170	393	
児童相談所	79	97	176	
(病院)	64	22	86	
一時保護所へ面接訪問	0	0	0	
同行支援	役所・買物・家事援助	310	255	565
	家庭裁判所・弁護士	2	8	10
	主治医訪問	30	18	48

#### (4) 障害等のある入所者の支援

知的、精神的な障害のある入居者のために各種の制度、手当等の利用をアドバイスし、入所者が自立のためにより有利な状況を確認できるよう努めた。

また、自立に向け通勤・通学や通院に公用車でなく公共交通機関を利用する同行支援を関係機関と連携し実施した。

#### 4 行事

母親や子どもが施設の中での生活を楽しみ、趣味などを通して精神的な安定や自立への意欲を高めてもらうために各種行事を実施した。行事は母親や子どもが、職員や他の利用者との親睦を深めたり、日頃のストレスを解消したりする場ともなっている。また、母親が忙しく子どもを外出に連れていくことができないなど子どもの楽しみの体験が希薄になりやすい事情を補う役割も担っている。

##### 【元年度年間行事】

- 4月 2日 春のバス遠足 児童 27名参加
- 4月 16日 母親健康診断 受診者 27名
- 5月 母の日プレゼント(タンブラー・カード)作り 児童 47名参加
- 5月 11日 児童文化奨励絵画展(県養協主催) 出品 5名入賞
- 5月 18日 子ども日の遠足(お弁当作り、城北公園へ遠足) 児童 16名参加
- 7月 5日 七夕まつり(飾り・風鈴作り) 児童 38名参加
- 7月 26日～8月 27日 夏休みラジオ体操
- 8月 9日 梅ヶ島金山温泉バス遠足(バーベキュー、プール) 児童 26名参加
- 8月 25日 児童昼食会(食肉組合青年部「内人会」バーベキュー大会) 児童 22名参加
- 10月 26日 母子遠足(サファリパーク) 母子 58名参加
- 11月 7日 入所施設防災の日防災訓練千代田消防署員 4名 母子 45名参加
- 11月 2日 母親嘱託医検診 受診者 25名
- 12月 1日 上足洗地域防災訓練 母子 23名参加
- 12月 25日 クリスマス会 児童 38名参加
- 1月 4日 千代田寮新年会 母子 45名参加
- 2月 3日 節分豆まき会 母子 38名参加
- 3月 3日 ひなまつり 母子 25名参加

#### 5 研修・会議

入所者に対して適切な支援が行われるよう自己評価に基く課題等を踏まえ、施設内外の研修・会議を通じて、必要な知識及び技術の習得、維持及び向上に努めた。

## ○ 研修

面接スキルトレーニング（年6回）

養育費に関する研修会

社会福祉法人事務職員経理応用講座

感染症講座

権利擁護・虐待防止セミナー

児童福祉施設におけるスキルアップ研修会

社会福祉法人財務管理講座 ほか

※ 職員会議等において施設外研修参加者による伝達研修を実施

## ○ 会議

千代田寮運営会議、母子支援員会議、少年指導員会議、ケース会議

関東ブロック母子生活支援協議会

全国母子生活支援協議会

静岡県母子生活支援協議会 ほか

## 6 実習学生の受入れ

将来、社会福祉に携わる人材の養成・確保を支援するため、大学等からの依頼に基づいて実習学生を受け入れた。

令和元年度は、県内大学を中心に5校25人を受け入れた。

## 7 緊急一時保護の受入れ

様々な事情により緊急的に保護が必要となった母子を県、市町からの依頼に基づいて専用居室において短期間受け入れた。

令和元年度は、静岡県、静岡市からの依頼により5世帯、15人を保護した。

## 8 防災、防犯対策

宿直制により施設には職員が24時間常駐している。災害等に備え入所者の避難訓練、消火訓練を定期的実施しているほか、非常時に情報が各居室に速やかに伝達されるよう一斉通報システムが設置されている。

また、防犯対策として、敷地内5か所に防犯カメラを設置しているほか、防犯フィルム貼付、正門の常時締切などの対応を行っている。警察には日頃から防犯、緊急時の対応等について協力を依頼している。

## 令和元年度 千代田保育園事業報告

子どもの生活環境や子育て環境が大きく変化し、子育て支援に対する保育園の役割はますます深化・拡大している中で、次の保育理念、保育方針及び重点目標に基づいて充実した保育の提供に努め、年度末には、第72回の卒園式を挙行し、33名の逞しく成長した子どもたちを8校の小学校へ送り出すことができた。

\*在園児童数

(単位:人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園児数	167	173	173	173	178	179	180	180	180	180	180	180

(別表1 年齢別在園児童数)

### <保育理念>

子ども一人ひとりの人格を尊重し、あそびを通して、知識や思考の土台となる経験を乳幼児期にたくさんさせ、子どもらしい生き生きとした生活が豊かに営まれるように保障していく。

### <保育方針>

子どもたちをとりまく環境をより豊かにし、自ら考え、自ら行動し、健康で思いやりの心をもった子どもに育てる。

### <重点目標>

- 丈夫な体
- 豊かな心

## 1. 保育計画に基づいた保育の到達状況

今年度も、本来の千代田保育園の保育をさらに充実させるため、「丈夫な体」「豊かな心」を重点目標として取り組んだ。

具体的には、積極的に戸外に出て、水、土、泥、砂に触れ、子どもが五感をフルに使い、エネルギーを高め、想像力を膨らませ、乳幼児期に十分な「あそび」を体験できるよう心がけた。併せて、他人と協調することや、子ども自身が自ら考え、自ら行動するといったことも重視し、子どもの頭と心と体がバランスよく育つよう配慮した。

特に、丈夫な体作りの一環として取り組んでいる裸足保育については、職員間で話し合った裸足の重要性についてまとめたものを「千代田保育園のしおり」に掲載し、保護者に配布した。今後、毎年全員の足型を取り、変化を見ていくこととしている。また、年齢ごとの体づくりについても意識しながら保育し、何年先かを見通して今の時期にできる体づくりを行った。

### (1) 自然との触れ合い

天気の良い日には、子どもたちが園庭で元気に遊んだり、積極的に近くの公園、空き地にも出かけ、四季折々の自然を感じたり、触れたりしながら楽しめるよう配慮した。年間行事の中にも徒歩遠足や山歩きなど、自然と触れ合う機会を多く取り入れた。ただ、今年度の谷津山登りは、天候に恵まれず、他の日程が取れず残念ながら実施することが出来なかったため、代わりに城北公園の歩き遠足を行った。

#### (2) 創造力を膨らませあそびを発展

夏は、毎日プールに入り、子どもたちは水がかかっても平気になっただけでなく、水の中で浮いてバタ足ができるようになり、中には泳げるようになった子もいた。冬でも暖かい日には、子どもたちは蛇口をひねり、水を出し、容器の中に水を入れたり、こぼしたりして水の感触を楽しんだ。

2、3歳以上の子どもたちは、鬼ごっこ、かくれんぼなどルールのあるあそびを子どもたちで工夫して楽しむ様子が見られた。

大きい子どもたちは、砂場で山を作り、共同で穴を掘ったり、川作りをしたりと創造力を膨らませてあそびを発展させていくことができ、また、「ピカピカだんご」作りなどにも楽しんで取り組んだ。

#### (3) 絵本や紙芝居、お話等に慣れ親しむことができる機会

家庭では、子どもたちの遊びがテレビ、ビデオ、ゲーム等が中心となり、その影響が大きく心配されるため、園では絵本や紙芝居、お話等に慣れ親しみ、頭の中で想像力を膨らませることができる機会を多くするとともに、図書コーナーを整理して絵本の冊数を増やし、絵本、童話等の貸出しも行った。特に、乳児クラスでも各クラスでの貸出しができるよう環境を整えた。その結果、親子で絵本を毎日のように借りていく姿が見られた。

保育の中では、毎日、クラス担任が、読み聞かせをし、色々な話に触れることができるよう工夫した。また、1ヶ月に1回、年長、年中のどちらかの部屋へ「読み聞かせ」の講師を招き、午睡前の時間を使って、手遊び、詩の朗読、絵本の読み聞かせなどを実施した。

#### (4) 「食育」の一環としてのクッキング保育

「食育」の一環として、カレー、へそもち、ホットケーキ等を作るクッキング保育を取り入れた。初夏には野菜づくりにも取り組み、ミニトマト、パプリカ、きゅうり、なす等を育てて収穫するという喜びを通じて、子どもたちの食に関する興味が増していった。暑さのため、今年度の収穫は例年に比べ少なかったが、野菜をそのまま食べたり、部屋で切ったり、炒めたりなどして味わうことにより、調理することへの関心が広がり、調理する人の大変さも知り、給食職員が子どもたちから「ありがとう」「おいしかった」と声をかけることも増えた。

年に何回か、給食職員が年長クラスに赴いて、食に関する絵本の読み聞かせをしたり、実際にその場で子どもたちと一緒にジャムやバターを作ったり、味見したりした体験は、子どもたちにとって、とても興味深いものとなった。また、昨年から椎茸の栽培も行い、椎茸の成長過程を見ることができ、子どもたちだけでなく、職員も強い興味を持ったほか、稲穂を種からバケツで栽培し、米の出来る過程を観察したり、籾殻を剥き、米粒を取り出すことも体験し、子どもたちにとって米がより身近な存在になった。

## 2 職員間の連携

職員間の連携では、それぞれの保育士が専門的知識及び技術をもって保育をすることはもとより、保育士間の日常のコミュニケーションを密に取ることにより、より適切な保育が可能になっただけでなく、効果的な保護者支援にもつなげることができた。

具体的には、子どもの発達、保育方法などについて会議を設け、情報共有等を図ったほか、職員が協同して園における子どもたちの姿の写真を掲示したり、日々の保育の意図などをクラスだよりなどで知らせながら子育てのワンポイントやアドバイスをを行い、保護者が保育園での様子を踏まえて、より安心して子どもと関わるができるよう努めた。

## 3 地域にとって親近感と信頼感をもたれる施設

園児の祖父母や地域のお年寄りを保育園に招待したり、高齢者福祉施設を訪問して、手あそび、ふれ合いあそびなどを通じて交流を深めた。

また、家庭で子育てをしている保護者が子どもを連れて気軽に保育園に立ち寄れるよう“おしゃべりサロン”を開催し、園庭解放などを積極的に行い、保育園が地域の中でも親近感と信頼感をもたれる施設として機能するよう努力した。“おしゃべりサロン”は、ベビーマッサージ、歯科衛生士の話、「きのいい羊たち」、バルーンアート、絵本の話、おみせやさんごっこなどの内容により年9回開催した。

## 4 保育内容

保育所保育指針に基づき、保育計画、年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画を立て、保育園の特色とすべき養護の面に特に配慮し、子どもの自発的、主体的な活動を援助するという姿勢のもと、保育指針の5領域の教育分野に、きめ細かな内容を取りいれて保育の充実に努めた。

## 5 年間行事

- 4月 1日 入園式。新入園児 30名
- 2日 浅間山花見（年長児）
- 11日 新入園児・在園児対面式（101名）



- 27日 保護者総会・クラス懇談会
- 5月 9日 おしゃべりサロン (ベビーマッサージ 参加者 10組)  
14日 動物教室 (年長児) ※幼児クラスの遠足は雨天のため中止  
30、31日 嘱託医による健康診断 (173名)
- 6月 4日 保育参観  
6日 嘱託医による歯科検診  
10日 セントケア (介護老人施設) 訪問 (年長児 33名)  
11日 おしゃべりサロン (歯科衛生士の話 参加者 5組)  
13日 市民プール (年長児 33名)  
18日 消防署職員による花火教室 (幼児クラス)  
19日 プール開き
- 7月 3日 おしゃべりサロン (園庭解放 参加者 4組)  
13日 千代田まつり (173名+保護者)  
18日 大浜プール (幼児クラス 102名)  
26日 「お楽しみ会」 (年長児 33名)  
31日 プール参観 (たんぽぽ・ちゅうりっぷ・さくら・れんげ組)
- 8月 1、2日 プール参観 幼児クラス (ゆり～こすもす組)
- 9月 3日 プール納め  
10日 おしゃべりサロン (「きのいい羊たち」 参加者 12組)  
13日 十五夜のへそ餅づくり (年長児)
- 10月 21日 運動会 (雨天延期のため幼児のみ参加)
- 11月 1日 防災訓練  
9日 セントケア (介護老人施設) 訪問 (年長児 35名)  
14日 七五三の祝会 (さくら～こすもす)  
23日 徒歩遠足 (城北公園)  
21日 みかん狩り (幼児クラス)
- 12月 14日 クリスマス会 (全園児)
- 1月 15日 お別れ遠足 (年長児親子 33組)  
20日 凧揚げ (幼児クラス)  
22日 シルエット劇場 (年長児)

2月 3日 豆まき 鬼や福の神が現れて豆まきを行った。

6日 お店やさんごっこ (年中、年長クラス)

3月 3日 ひなまつりの会 (新型コロナウイルス感染症対策のため幼児の集いのみ)

21日 第72回卒園式 (新型コロナウイルス感染症対策のため、式を短縮 年長児 33名)

#### ※月間行事

- ・身長体重測定
- ・誕生会・童話会
- ・避難訓練
- ・職員会議
- ・絵本の読み聞かせ (年長、年中で隔月)

#### 6 実習生の受け入れ

常葉大学 (2名)、常葉大学短期大学部 (1名)、  
静岡県立大学短期大学部 (2名)、静岡福祉医療専門学校 (2名)、  
静岡こども福祉専門学校 (2名)

※職場体験 中学生や高校生 (7校、16名)

#### 7 職員研修の実施

県保育連合会、県保育士会、市保育士会、ときわ保育士会、日保協等よる研修会にはできる限り多くの保育士を参加させ、資質の向上に努めた。

ときわ保育士会	実技研修：自然と科学、プール、音楽、絵本等 理事研修：年4回 講演会：講師 増田修治氏
静岡市保育士会	養護講座 実技研修：わらべうた
静岡県保育士会	保育士研修会：リーダーセミナー キャリアアップ研修
静岡県保育連合会	保育研究大会
静岡県中部支部	保育士研修会：るくる
静岡市保育協会	実技研修：歌遊び 調理実習
全国保育士会	関東ブロック保育研究大会
日本保育協会	事故予防研修会

静岡市保健所	食中毒予防
近隣園・小	合同研修会
こども病院	食物アレルギー
こども園課	栄養士研修

8 他機関会議等の参加

下記会議等に園長、主任が出席し、協議及び情報収集を行った。

- (1) ときわ保育士会、静岡市保育士会、静岡県保育士会等の総会
- (2) 県保育連合会、県中部支部等の総会
- (3) 私立園長会
- (4) ときわ保育士会役員会、理事会
- (5) 市保育協会
- (6) 城東子育て支援センター
- (7) 視察研修

9 一時預かり事業

在園児以外の近隣住民の乳幼児を預かることによって、地域で安心して子育てができる環境整備に寄与している。

利用者は次のとおりである。申込者の中で利用日当日に児童の体調不良等でキャンセルとなったケースが何件かあった。

※利用者数

(単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	3	8	1	0	1	1	2	2	0	1	0	0

10 保護者アンケートの実施

園の運営方針、施設環境、保育等に関する保護者アンケートを実施し、66.6%の回収率であった。保護者の園に対する理解や不満、要求などを知ることにより、これからの保育園の運営等に役立てていきたい。

11 熱中症対策

暑さが厳しかったため、各クラスのエアコンをフル活用し、子どもたちの健康管理に努めた。また、幼児クラスは保護者に水筒持参をお願いし、乳児クラスは経口補水液や麦茶を与え、水分補給をこまめに行った。2階保育室のウッドデッキには、よしず型のシェードを設置し、暑さ軽減を図った。

別表 1 年齢別在園児童数

(単位：人)



令和元年度  
事業報告の附属明細書

(内容)

- ・該当事項はありません